Can-do Statements 研究

高校生を対象として，現実場面での英語運用能力の自己評価（Can-do Statements）と，実際のパフォーマンスの客観評価結果，およびペーパーテストの結果を比較し，それらの関係性や Can-do Statements 自体の妥当性を検証する。

❶ GTEC for STUDENTS Can-do Statements の妥当性検証研究概観 …… 96

東京外国語大学　根岸雅史

❷ 日本人高校生英字新聞読解調査
— 英語リーディング能力に関するCan-do Statements開発への基礎研究 —・ 104

東京外国語大学大学院博士前期課程/ARCLE 研究員　吉池陽子

❸ 日本人高校生英語電子メール作成能力調査
— 英語ライティング能力に関するCan-do Statements開発への基礎研究 —・ 113

東京外国語大学大学院博士後期課程/日本女子大学附属高等学校　工藤洋路

GTEC for STUDENTS Can-do Statements の妥当性検証研究概観

A General Review of Validation Studies of GTEC for STUDENTS Can-do Statements

根岸雅史
Masashi NEGISHI
東京外国語大学
Tokyo University of Foreign Studies

Abstract

The purpose of this paper is threefold: to explain the development process of the GTEC for STUDENTS Can-do Statements, to relate the Can-do Statements to the Common European Framework of Reference for Languages (CEFR), and to validate the Can-do Statements by comparing them with high school students' actual performance on certain tasks. Each student was evaluated based on their ability to perform tasks such as reading the newspaper, writing emails and conversing over the phone, all of which are important descriptors from the GTEC for STUDENTS Can-do Statements. Also, if a student participated in a homestay program, they were asked to keep a "can-do journal", which was later evaluated. Based on the findings of this study, modifications to the GTEC for STUDENTS Can-do Statements, and plans for future test development, were proposed.

Keywords

Can-do Statements, real life performance, test, CEFR

1. GTEC for STUDENTS における Can-do Statements の開発

1.1 開発の動機

本稿では，GTEC for STUDENTS における Can-do Statements 開発のプロセスとその妥当性の検証結果について報告する。この Can-do Statements が開発されたのは，高校生のための外国語としての英語熟達度テストである GTEC for STUDENTS（ベネッセコーポレーション）のテスト結果のフィードバック機能の向上のためである。日本におけるほとんどのテストは，その結果のフィードバックは「得点」「偏差値」「合否」などによっている。しかしながら，これらのフィードバックでは，受験者の相対的な「でき具合」を知ることはできても，その受験者が英語で具体的に何ができるのかについての情報を提供してこなかった。こうした問題点を克服するために，GTEC for STUDENTS の Can-do Statements は開発されることになった。今日では，Common European Framework of Reference for Languages (CEFR) (Council of Europe, 2001)などの Can-do Statements を中心とした言語能力記述の枠組みが提案・使用されているが，ここで報告する GTEC for STUDENTS の Can-do Statements はこれらの枠組みとは全く独立に作られ

てきたものである。

1.2　開発のプロセス

GTEC for STUDENTS の Can-do Statements 開発のプロセスは，以下の通りである。

① **ブレーン・ストーミング**：現実の生活の中で英語を使って日本の高校生が何をしているかを知るために，高校時代に留学経験のある大学生を集めて，項目を洗い出した。これらの項目をもとに，さらに必要と思われる項目を追加した。

② **Can-do アンケート項目の作成**：①の結果をもとにアンケート項目を作成した。アンケートでは，まず，経験を問い，次に，経験のある被験者に「できる・できない」を尋ねている。

表 1.　Can-do アンケート項目の例

Category B: Question 37) Writing postcards and greeting cards in English
1.　I have never written cards or postcards in English.
2.　I can write simple messages in English.
3.　I can express myself to some degree using written English.
4.　I can write most of what I want to express using English.

③ **Can-do アンケートと GTEC for STUDENTS の実施**：GTEC for STUDENTS はスコアを元にしたグレード（G1－G6）が，技能ごとにフィードバックされるが，各技能のグレードに対応した Can-do Statements を作成するために，テスト受験者にアンケートに回答してもらった。

④ **Can-do アンケートと GTEC for STUDENTS のグレードとの関係分析**：アンケート項目ごとに GTEC for STUDENTS の各グレードでの「できる」と「できない」の比率をグラフ化した。

⑤ **GTEC for STUDENTS のグレードに関連付けされた Can-do Statements の作成**：基本的には「できる」の比率が「できない」の比率を超えたところのグレードをその Can-do 項目の遂行が可能となるグレードと判断し，これをもとにグレードに対応した Can-do Statements を作成した。以下が，その Can-do Statements の例である。

表 2.　GTEC for STUDENTS Listening Can-do Statements の例

Grade	Listening Can-do Statements
6	I can generally understand the outlines of the radio and TV news. I can understand the main plots of films without subtitles, though there are some lines I can't get.
2	I can recognize the topics of radio and TV news. I can understand some lines in films with subtitles.

表 3. GTEC for STUDENTS Reading Can-do Statements の例

Grade	Reading Can-do Statements
6	I can understand the outlines of textbooks and paperbacks in English. I can understand most of the Web pages on the Internet.
2	I can understand articles of personal interest in English magazines or newspapers with notes such as *Student Times* without using dictionaries.

これとは別に，テストの項目難易度をもとに，それぞれのグレードで解答可能となるテスト項目の特性の分析を行い，Proficiency Guidelines というものを作成した。以下が，その Proficiency Guidelines の例である。ここでは，テスト項目が測定していると思われる能力特性を記述しているために，その記述はテストで測定している能力に限定されることになる。

表 4. Reading Grade Level と GTEC for STUDENTS Proficiency Guidelines

230 and above	6	Can understand the main idea of a text passage, and can find information that is difficult to search for. / Can understand upper level senior high school vocabulary. / Can read an English text accurately at an appropriate speed.
120～139	2	Comprehension of a text's overall meaning and ability to search for information is inadequate. / Can understand lower level senior high school vocabulary. / Reading speed is slow, and there are frequent misunderstandings about the meaning of text passages.

2. GTEC for STUDENTS Can-do Statements と CEFR との関連性の検証

GTEC for STUDENTS Can-do Statements を，これとは全く独立して開発され，今日のヨーロッパの共通枠組みとして用いられている CEFR と比較することで，その共通性とそれぞれの独自性を見てみた。以下は，共通性の見られた descriptors の例であるが，対応すると思われる部分はイタリック体になっている。

表 5. GTEC for STUDENTS Can-do Statements と CEFR の対応する descriptors の例

GTEC for STUDENTS Proficiency Guidelines Listening-2
Can respond to spoken prompts with *straightforward and somewhat unvaried expressions*.
Corresponding CEFR OI (Oral Interaction)-A2 descriptor
I can communicate in simple and routine tasks requiring *a simple and direct exchange of information* on familiar topics and activities.

GTEC for STUDENTS Can-do Statements Listening-6
I can generally understand the outlines of the radio and *TV news*. I can understand the main plots of *films* without subtitles, though there are some lines I can't get.
Corresponding CEFR Listening-C1 descriptor
I can understand *television programmes and films* without too much effort.

GTEC for STUDENTS Can-do Statements Reading-Upper 1
I can understand simple English messages of *birthday cards or Christmas cards*. I can read most of the menus in fast-food restaurants.
Corresponding CEFR Reading-A2 descriptor
I can read *very short, simple texts*. I can find specific, predictable information in simple everyday material such as advertisements, prospectuses, menus and timetables and I can understand *short simple personal letters*.

こうした対応関係の確認を包括的に行い，GTEC for STUDENTS の Proficiency Guidelines / Can-do Statements の CEFR のレベルとの対応関係を確立した（表 6 参照）。この表では，一部欠けていたり重なったりしているところがあるが，順番として前後しているところはない。こうしたことから，GTEC と CEFR との間には，十分な対応関係があると判断することができる。さらに詳しく見てみると，リスニングでは，CEFR の A1 は GTEC では Lower 1 と Upper 1 に分かれていたり，リーディングでは，CEFR の A2 と B1 の間に，GTEC ではグレード2が入っていたりしており，下位のレベルが細分されていることがわかる。

表 6. GTEC for STUDENTS グレードと CEFR のレベルの関係

[Listening]

CEFR	A1	A1	A2	B1	B1	B2	C1
GTEC	Lower 1	Upper 1	2	3	4	5	6

[Reading]

CEFR	A1	A2		B1	B1	B2	C1
GTEC	Lower 1	Upper 1	2	3	4	5	6

ただし，それぞれの枠組みに固有の特性があることが明らかになった。CEFR については，次の通りである。

- CEFR には文法への言及がない。これは CEFR がヨーロッパの言語共通枠組みであるために，特定の言語の文法といった観点からの記述がないのは当然である。
- CEFR には特定の新聞やラジオ番組などへの言及がない。CEFR は，ヨーロッパの言語共通枠組みであるために，特定の地域に基づく情報を盛り込むことはできない。この意味では，日本などの特定の地域のための枠組みといった場合は，積極的にこういった情報を盛り込み，枠組みの利用者への利便性を高めた方がいいだろう。

- CEFR-Reading には読解速度やスキャニングへの言及が（ほとんど）ない。CEFR-Reading では，読むことの速度やスキャニングといった読みのスキルに関しての記述がない。読解速度に関しては，GTEC for STUDENTS では，別途学習者のデータをとって記述を加えてきた経緯がある。「読解速度」は，リーディングの能力においては，「理解力」と並ぶ重要な柱であると考えられており，能力の記述に含めることは意義があると思われる。また，スキャニングは，GTEC for STUDENTS-Reading においては，テスト・スペックに明確に位置づけられており，これを反映した形で，能力記述にも入っているが，こうした観点も今後 CEFR に盛り込まれてもいいだろう。
- CEFR-Reading には辞書使用への言及がない。CEFR-Reading における能力記述では，辞書を使ってのパフォーマンスを前提としていないと思われる。しかしながら，外国語学習者としては，新聞などを読むような場合でさえ，辞書使用をまったく排除することは現実的ではないだろう。ただし，辞書使用の可能性を含めることは，その使用の程度に学習者間で大きな差があると考えられるために，パフォーマンスの安定性を下げることになるものと思われる。
- CEFR は「大人向けの記述」である。Keddle（2004: 50）の指摘するように，そのトーンは大人向けであり，教室場面との関連性は低いように思われる。したがって，外国語として英語を用いている日本においては，教室場面との関連性が見えてくるような能力記述を盛り込むことが求められるかもしれない。

これに対して，GTEC for STUDENTS の特性は，次の通りである。

- GTEC for STUDENTS-Listening には方言の理解などへの言及がない。GTEC for STUDENTS のような熟達度テストにおけるリスニング・テストにおいては，方言などが含まれたリスニング・テスト項目というものは，ほとんどなかったのではないか。これは，まずリスニング・テストの作成に当っては，基本的に「標準的な英語話者」が選択されてきたと思われる。しかしながら，今後のテスト開発においては，難易度の高いリスニングのテスト項目の作成に当たり，方言を含んだ英語の聞き取りということも考えられてもよいかもしれない。
- GTEC for STUDENTS-Listening には速さや明瞭さへの言及がない。これも，GTEC for STUDENTS に限ったことではないが，従来の熟達度テストにおけるリスニング・テストにおいては，一般に音声の収録では，ほぼ均一のスピードがこれまで保持されてきた。また，不明瞭な発音というものも避けられてきたと言える。万が一不明瞭に発音されてしまった場合は，収録のし直しがなされてきているはずである。しかしながら，今後のテスト開発においては，難易度の高いリスニングのテスト項目の作成に当たり，発話速度や明瞭さの調整をするという可能性もあるだろう。

3. GTEC for STUDENTS における Can-do Statements の妥当性の検証

GTEC for STUDENTS の Can-do Statements は，今日の代表的な言語能力記述の枠組みである CEFR と照らしても，十分な対応関係があり，また，日本人の高校生にとって必要と思われる下位のレベルの記述が細かく分かれていることがわかった。ただし，上述したとおり，Can-do Statements のもとになっているデータは，アンケートの結果であり，これはいわば自己申告に基

づくものである。確かに，GTEC for STUDENTS の Can-do Statements は，経験した結果を「できた」のか「できなかった」のかについて報告させてはいるが，実際のパフォーマンスに基づいて判断したわけではない。そこで，本調査では，GTEC for STUDENTS の Can-do Statements の精度をさらに高めるために，これらのうち代表的なものについて実際のパフォーマンスを調査してみることにした。

ついでながら，この点は，経験の有無を問題としない自己判断をもとにした Can-do Statements や教師などの第3者による判断をもとにしたものとも異なる。日本人高校生の場合は，英語を使っての実際のコミュニケーションの経験が非常に限定されていることはわかっているが（吉田他，2004），こうした状況では，経験に基づかない自己申告による Can-do Statements には，高い信頼性は望めないだろう。また，教室で教える教師なども，現実のコミュニケーション場面で学習者がどの程度タスクが遂行できるかの判断は難しいといわれている。

技能別の調査としては，「リーディング：英字新聞調査」，「ライティング：電子メール調査」，「スピーキング：電話調査」である。また，特定の項目に限定されずに概観的に調査したものとして「海外ジャーナル調査」がある。これらのうち，「リーディング：英字新聞調査」と「ライティング：電子メール調査」については，詳細は本号の吉池(2006)および工藤(2006)に収録されているために，そちらを参照されたい。「リーディング：英字新聞調査」，「ライティング：電子メール調査」，「スピーキング：電話調査」では，まずそれぞれのパフォーマンスに関する Can-do アンケートを実施し，そのあとで実際のパフォーマンスを直接調査した。「ライティング：電子メール調査」と「スピーキング：電話調査」では，実際に電子メールを書かせたり，電話で話させたりした。それに対して，「リーディング：英字新聞調査」では，受容技能のパフォーマンスを見なければならない。そのために，なるべくそれぞれの新聞記事を読んだときに行うと考えられるタスクを作成して，そのタスク遂行の成否を見た。

「海外ジャーナル調査」は，近年多くの高等学校で行われるようになってきた海外ホームステイ・プログラムを対象としたものである。この調査に当たっては，ホームステイ期間中に英語で何をやろうとして，その結果がどうであったかを毎日記録してもらうためのジャーナルを作成した。調査対象となった高校生は，このジャーナルを持って渡航し，毎日記録していった。帰国後これを回収し，その結果を分析した。この調査では，「リーディング：英字新聞調査」，「ライティング：電子メール調査」，「スピーキング：電話調査」よりさらに1歩進めて，海外の実際のコミュニケーション場面でのパフォーマンスを報告してもらったことになる。

（1）リーディング：英字新聞調査

この調査では，実際の英字新聞記事を読ませて，その結果と Can-do アンケートの結果をつきあわせることを行った。その結果，次のようなことが分かった。

- 経験のある学習者や能力の高い学習者の自己評価は信頼性が高い。
- 能力の低い学習者でも読める英字新聞の記事がある。
- 身近なトピックについての一般的な記事を読めるにはグレード5・6が必要。

（2）ライティング：電子メール調査

この調査では，実際英語で電子メールを書かせて，その結果と Can-do アンケートの結果をつ

きあわせることを行った。その結果，次のようなことが分かった。

- ある程度のライティング力があれば，通じる電子メールは書くことができる。
- エッセイを書く能力と電子メールを書く能力には異なった能力が関わっている。
- 電子メールの評価基準が新たに必要である。

（3）スピーキング： 電話調査

この調査では，実際に英語で電話をかけさせて，その結果とCan-doアンケートの結果をつきあわせることを行った。その結果，次のようなことが分かった。

- ほとんどの被験者は電話でのある程度の課題遂行が可能であった。
- 電話でのスピーキング能力の評価基準としては，単に「できる・できない」という二分法的な判断だけでなく，どの程度「うまく」できるのかという段階的な判断が必要だと思われる。

（4）海外ジャーナル調査

この調査では，オーストラリアのホームステイ・プログラムに参加した高校生に，その日に英語でどのようなことをやって，その結果がどうであったかをジャーナルに記録してもらった。そのジャーナルを分析した結果，次のようなことが分かった。

- 問題解決場面に直面すると，ある程度のことはできてしまう。
- 問題解決（「できる」「できない」）という基準以外に，どの程度「うまく」解決できるかという基準を導入すべきかもしれない。
- 同じ言語能力でも，「経験値」が上がると「できること」が増えていく。
- 「自己評価」だけでなく，「他者評価」を入れる必要性がある。

これらの調査から得られた興味深い結論としては，「経験値の高い学習者」や「能力の高い学習者」の自己申告は信頼できるという点がある。日本人英語学習者は，コミュニケーションの実際の経験が少ないために，Can-do Statements のためのデータ収集に際しては，注意が必要であろう。とりわけ英語能力の下位の学習者は，「できること」も少ないだけでなく，経験値も上位者に較べてはるかに低いのである。

また，GTEC for STUDENTSのような特定のテストのスコアとCan-do Statementsを関連付ける場合，そのテストが測っている能力のディメンションと特定のCan-do Statementsのディメンションが異なっている場合は，関連づけが難しいことがわかった。たとえば，エッセイ・ライティングに基づくGTEC for STUDENTSのライティング・スコアに，電子メールのパフォーマンス・レベルを関連づけることは難しいかもしれない。同様のことは，モノローグに基づくスピーキング・テストのスコアに，インタラクションである電話のパフォーマンスを関連づけることは難しいということになるのかもしれない。これに対して，GTEC for STUDENTS のリーディング・テストのディメンションは，英字新聞のリーディングのパフォーマンスのディメンションと合っているようである。一般的な傾向として，多数のテスト項目からなるテストは，パフォーマンスとの関連づけがしやすいのかもしれない。その意味では，今回の調査には含まれなかったリスニング・テストとパフォーマンスとの関連付けの可能性も高いものと思われる。

参考文献

Council of Europe. 2001. *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

----------. 2003. *Relating Language Examinations to the Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment* (CEF). Manual: Preliminary Pilot Version. DGIV/EDU/LANG 2003, 5. Strasbourg: Cambridge University Press.

Keddle, J. S. 2004. "The CEF and the secondary school syllabus" *Insights from the Common European Framework*. Morrow (ed.). 2004. 43-54.

Morrow, K. (ed.). 2004. *Insights from the Common European Framework*. Oxford: Oxford University Press.

吉田研作，渡部良典，根岸雅史，長沼君主，ベネッセコーポレーション国際教育事業部（2004）「学生CAN-DO/英語教員意識調査から見た日本，韓国，中国英語教育の現状と今後の課題」In Benesse Corporation. (Ed.),『東アジア高校英語教育GTEC調査: 指導と成果の検証』(pp. 27–60). ベネッセコーポレーション.

日本人高校生英字新聞読解調査
—英語リーディング能力に関する Can-do Statements 開発への基礎研究—

A Study of Japanese High School Students' Ability to Read English Language Newspapers: A Fundamental Study for Developing Can-do Statements With Regard to Reading Ability in English

吉池陽子
Yoko YOSHIIKE
東京外国語大学大学院博士前期課程 ／ARCLE 研究員
Tokyo University of Foreign Studies
The Master's Program of the Graduate School ／
Researcher at ARCLE

Since the current Can-do Statements for GTEC for STUDENTS do not take actual abilities into consideration, there is a need to develop new, performance-based Can-do Statements. The purpose of this study was to develop these new Can-do Statements with regard to reading ability, particularly in relation to reading English language newspaper articles. The study was conducted using 778 Japanese high school students in two Super English Language High Schools (SELHis). The participants engaged in tasks to assess their ability to read English language newspaper articles. Each examinee's performance was then reviewed to determine if there was a correlation with their GTEC for STUDENTS level of language proficiency. Although the ability to read an English language newspaper is not included in the lower level descriptors used in GTEC for STUDENTS, the results showed that lower level examinees are, in fact, capable of reading some articles in an English language newspaper. These findings validate the creation of Can-do Statements related to newspaper-reading for Japanese high school students.

Keywords
Can-do Statements, reading ability, newspaper, performance

1. はじめに

本研究は高校生の実態に合わせたリーディングの Can-do Statements 開発を目的とし，GTEC for STUDENTS での Can-do Statements にも記載のある英字新聞というツールに着目して調査を行った。GTEC for STUDENTS の Can-do Statements は，学習者の経験に基づいた自己申告による回答と，グレードとの関係を分析した上で作成されている。このような学習者の自己申告による Can-do Statements が，学習者の「できること」を示すツールとして注目される一

方で，それらが「自己申告」に基づくことから，その妥当性に疑問を持つ声も少なくない。また，現在の GTEC for STUDENTS では下位グレードにおいて英字新聞読解に関する記述がなく，下位グレードの学習者にフィードバックできる Can-do Statements が限られているのが現状である。そこで今回の研究は，GTEC for STUDENTS での Can-do Statements の更なる開発につなげるために，各グレードの学習者がどのような英字新聞の記事を読むことができるのかを具体的に明らかにする。

2. 先行研究

2.1 Can-do Statements

テストという枠組みを越えて，学習者が現実の生活においてできることを示そうとする試みとして注目されているのが Can-do Statements である。Can-do Statements はテストスコアと学習者のできることとの関連付けを試みた。これらの関連付けができれば，テストスコアからその学習者のできることが分かると考えたからである。このような取り組みで有名なものに，ヨーロッパでのプロジェクトの 1 つとして Common European Framework of Reference for Languages（CEFR)がある（Council of Europe, 2001）。また，TOEIC(Test of English for International Communication)でもテストスコアと学習者の自己申告による学習者のできることを関連付けている（Educational Testing Service [ETS], 2000）。GTEC for STUDENTS（Global Test of English Communication for Students)では，学習者のグレードごとに「できること」を記述し，テストスコアと併せて学習者にフィードバックしている。このような「できること」を示した Can-do リスト作成にあたっては，学習者の経験に基づいて自己申告してもらった「できること」とテストスコアの関連付けがなされている（根岸，2001）。Ross(2005)は自分自身で行う評価の場合，学習者の経験の有無は重要な要素で，経験に基づくことで正確な評価につながると指摘しており，GTEC for STUDENTS の Can-do Statements が学習者の経験に基づいていることから，妥当性はより高いものであるといえるだろう。

2.2 Can-do Statements と実際のパフォーマンスとの関係

学習者が実際にできることを記述する手段として Can-do Statements が注目される一方で，自己申告による Can-do Statements の妥当性について疑問視する声も少なくない。自己申告は申告者に依存するため，実際の能力を過大もしくは過少評価する可能性が指摘されている（根岸，2001; 長沼他，2005）。特に日本の高校生は過少評価する傾向があることも報告されている（吉田他，2004）。ETS(2000)の報告では，TOEIC のテストスコアと学習者の自己申告による「できること」を関連付けた Can-do リストを提示したものの，リストで提示されているものを実際に学習者ができるかどうかは分からないとしている。自己申告とはつまり，自分が行ったことを自分自身で評価することであり，このような self-assessment は学習者にとって非常に難しく，適切に評価することの難しさも指摘されている(Little, 2005)。このように，テストのスコアと自己申告による「できること」を関連付けることで Can-do Statements を作り上げる試みが進む一方，そのような「できること」を示す一覧が，実際のパフォーマンスを直接みることで作成されたものではないことから，その妥当性を疑う声も少なくないのである。

2.3 Can-do Statements の記述

Can-do Statements は，できることのレベルを示すために具体的に記述されていることがある。例えば GTEC for STUDENTS におけるリーディング能力の Can-do Statements のグレード3で，「*Japan Times* や *Daily Yomiuri* などの日本の英字新聞で，興味のある記事は辞書があれば読んでも理解できるでしょう。」といったように，「*Japan Times* や *Daily Yomiuri* などの日本の英字新聞」と具体例を提示することで，「できること」のレベルを示している。しかしながら，「英字新聞」の中にも様々な記事があることから，異なる難易度の記事が混在しているといえる。つまり，「英字新聞」という一言では，具体的な難易度を代表することはできないといえよう。このように「英字新聞」が Can-do Statements の記述に使用されても，どのレベルの学習者がどのような記事が読めるのかまで明記されていないといえる。

3. 調査

3.1 目的と概要

本研究では，GTEC for STUDENTS のグレード毎に，どのような新聞記事を読むことができるのかを具体的にみることを目的として調査を行った。

調査では学習者の英字新聞読解パフォーマンスを測るための英字新聞読解タスクを実施し，その結果と GTEC for STUDENTS のグレードとの関係をみた。

3.2 収集データ

3.2.1 英字新聞読解タスク[注1]による英字新聞読解パフォーマンス

英字新聞を実際にどれくらい読めるのかを測る英字新聞読解タスクを作成し，高校生に作成したタスクに取り組んでもらった。実施したタスクを採点し，その結果を英字新聞読解パフォーマンスとした。使用した英字新聞は *Japan Times* である。タスクは以下の手順で作成した。

① 新聞記事のカテゴリー分類

英字新聞に記載されている記事をいくつかのカテゴリーに分けた。カテゴリー分類には CEFR の Can-do Statements のうち，情報や意見の読みに関する記述(Council of Europe, 2001, p.70), DIALANG self-assessment statement での新聞の読みに関する記述(Council of Europe, 2001, p.231)を参考にした。

② 各カテゴリーに該当する記事の選定

分類した新聞記事の各カテゴリーに該当する新聞記事を *Japan Times* から選んだ。

③ 選定した新聞記事の理解度を測るタスクを設定

タスクはできるだけ自然な読み方に近いもの，つまり，実際に記事を読む際にするであろうことを考えて，それをタスクとして設定した。タスクは「できた」「できない」のいずれかで採点した。

注1 英字新聞読解タスクの一部を参考資料に提示。

なお，調査は高校の授業時間中に実施したため，実施時間の制約があった。生徒が全てのタスクに着手できるよう各タスクに制限時間を設けた。制限時間はパイロットスタディを実施した結果，適切と思われる時間を設定した。また今回は辞書の使用を禁止した。

英字新聞読解タスクの構成や各タスクの概要を表1に示す。

表 1. 英字新聞読解タスク

カテゴリー	Section	選定記事	タスクの Question No.	タスク No. & 内容
情報が羅列されたもの（文ではないもの）	Section 1	テレビ欄	Q1 - Q4	1. 特定の番組の情報を探す
	Section 2	広告	Q1	2. 概要把握
			Q2, Q3	3. 特定の情報を探す
情報が文で提供されているもの	Section 3	イベント情報	Q1, Q2	4. 特定のイベントを探す
意見，インタビュー	Section 4	数行の短い意見	Q1	5. 意見全体の概要を述べる
			Q3	6. 意見を分類する
写真つきの説明記事	Section 5	新製品紹介	Q2	7. 興味をもった製品を説明
事前に内容を知らない記事	Section 6 - (1)	通常記事	Q1, Q3	8. タイトルと内容の説明
事前に内容を知っている記事	Section 6 - (2)	通常記事	Q1, Q3	9. タイトルと内容の説明

3.2.2 GTEC for STUDENTS のグレード

生徒の熟達度レベルを示す指標としてGTEC for STUDENTSのグレードを使用した。英字新聞読解タスク実施時期とほぼ同時期にGTEC for STUDENTSを受験してもらい，その結果のグレードを使用した。

3.2.3 対象

Super English Language High School (SELHi) に指定された高等学校2校の高校2年生544名，3年生234名，合計778名の生徒を対象とした。

表 2. 生徒のグレード分布 （単位: 人）

グレード	1	2	3	4	5	6	不明	合計
2 年生	61	65	117	193	95	9	11	551
3 年生	21	41	54	62	37	10	12	237
合計	82	106	171	255	132	19	23	788

3.3 分析

英字新聞読解タスクを「できた」「できなかった」のいずれかで採点し，その結果と GTEC for STUDENTS のグレードとの関係をみた。

4.　結果

4.1　英字新聞読解タスクの結果とグレードの関係

英字新聞読解タスクの結果を各タスクに分けて，グレード別に「できた(Pass)」「できなかった(Fail)」をグラフにした。そのうちの一部を示す。

図 1.　Task 1（テレビ欄）でのグレードとタスクの達成・不達成の関係

図 2.　Task 2（広告）でのグレードとタスクの達成・不達成の関係

英字新聞読解タスクの結果とグレードの関係を更にまとめて，図３に示す。

：「できた(Pass)」割合が「できなかった(Fail)」割合を超えたもの
：「できなかった(Fail)」割合が「できた(Pass)」割合を超えたもの

図 3. 英字新聞読解タスクの結果とグレードの関係

5. 考察

5.1 英字新聞読解タスクの難易度とグレードの関係

図３の英字新聞読解タスクの結果とグレードの関係から，各グレードでの読める記事と読めない記事が分かった。実施したタスクの難易度（XCALIBER，Ver. 1.10）は図4のようになった。Task1(TV 欄)が一番難易度の低いタスクで，Task 8，9（通常記事)が一番難易度の高いものだった。この結果からもわかるように，英字新聞と一言で言っても，どのような記事を読むかによって，その難易度は大きく異なることが分かる。

図 4. タスクの難易度

このタスクの難易度順をもとに，図3のタスクを難易度順に並べ，グレードとの関係をまとめると次のようになる。

：　「できた」割合が「できなかった」割合を超えたもの
：　「できなかった」割合が「できた」割合を超えたもの

図 5. タスク難易度順ータスクのパフォーマンスとグレードの関係

この結果をみると，全グレードにおいて読むことのできる記事が存在していることが分かる。GTEC for STUDENTS が生徒向けのフィードバックとして示している Can-do Statements にも英字新聞に関する記載はあるが，その記述はグレード 3 以上からとなっており，それより下位のグレードでは記載がない。しかし，実際にはグレード 1，2 の生徒でも読むことのできる記事があることから，今回の調査結果をもとに，新たに生徒へフィードバック可能な Can-do 項目を提供できると考える。たとえば TV 欄を読むことができるといったことは，グレード 1 の Can-do 項目として記述が可能である。下位のグレードでの Can-do Statements はどうしても記述できるものが少ないことから，今回の調査結果をもとに，新たな Can-do Statements を追加することが可能と考える。

今回の調査で使用したタスクのうち，Task 4 では各グレードの生徒が「できなかった」ことになっている。これはタスクを選定した記事を読むための時間が短すぎたか，記事に設定したタスクが記事に対して難しすぎた等，タスク自体に問題があると考えられるため，今後の研究での修正が必要と考える。

5.2　GTEC for STUDENTS との関係

GTEC for STUDENTS のリーディングテストでは，短い時間で情報を検索する能力(scanning)や全体を把握する能力(skimming)を測定する問題がある。これらの能力は，実際に英字新聞を読む際にも使用している能力であるといえる。例えば今回の英字新聞読解タスク調査では，たとえば TV 欄に関するタスクでは自分の見たい番組を探すというタスクを通して，必要な情報を限られた時間の中で探すといったことを行っている。このように，GTEC for STUDENTS のリーディングの問題で測定している能力は，実際の英語使用場面で必要な能力を測定しているために，今回の英字新聞読解タスク調査による結果と GTEC for STUDENTS のグレードとの関連が明確に見えたのではないかと考える。

6. まとめ

今回の調査は高校生の実態に即したCan-do項目の開発を目的として行い，英字新聞読解タスクの結果から，各グレードで読むことのできる記事が明らかになり，下位グレードの生徒たちでも読むことのできる英字新聞の記事があることが分かった。このことは，下位グレードの生徒たちにフィードバックするための Can-do Statements に新たな項目として提案できる結果が得られたと考える。

今回の調査では，辞書使用の禁止や制限時間の設定など，いくつかの制限事項を設けた。また英字新聞は *Japan Times* に限定して調査を行った。今後の研究で，辞書を使用した場合や制限時間を設けない場合の英字新聞読解パフォーマンスの調査，また異なる種類の英字新聞，例えば日本で発行されている英字新聞である *Daily Yomiuri* や学習者向けの英字新聞を利用しての調査を行うことで，更に幅広く英字新聞の読みについての実態を把握できると考える。

今回の英字新聞読解タスク調査で，下位グレードの生徒たちでも実際に読むことのできる新聞記事が存在するという結果を得ることができたが，これはCan-do Statementsの開発に有益な示唆を得ることができたとともに，英語教育の現場にとっても，生徒の英語学習に対する動機付けに有益な情報を得られたと考える。グレード1や2の生徒たちでも読むことのできる記事が英字新聞には存在しているという事実を認識し，実際に生徒たちに英字新聞の記事を読むことを体験してもらうことで，英語学習への動機付けへとつなげていくことができるのではないだろうか。

参考文献

Council of Europe. 2001. *Common European Framework of Reference for languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge: Cambridge University Press.

Educational Testing Service. (2000). *TOEIC Can-Do Guide: Linking TOEIC scores to activities performed using English*. Available:http://www.ets.org/Media/Tests/Test_of_English_for_International_Communication/TOEIC_Can_Do.pdf [2005, December]

Little, D. (2005). The Common European Framework and the European Language Portfolio: Involving learners and their judgments in the assessment process. *Language Testing, 22* (3), 321-336.

Ross, S. (1998). Self-assessment in second language testing: A meta-analysis and analysis of experiential factors. *Language Testing, 15* (1), 1-20.

長沼君主，吉田研作，渡部良典，根岸雅史，ベネッセコーポレーション国際教育事業部（2005）「学生CAN-DO/英語教員意識調査から見た日本，韓国，中国英語教育の現状と今後の課題」In Benesse Corporation. (Ed.),『東アジア高校英語教育GTEC調査: 高校生の意識と行動から見る英語教育の成果と課題』(pp. 11–30). ベネッセコーポレーション.

根岸雅史（2001）. Can-doリストの開発ーそのプロセスと展望. *Development*, 22–29.

吉田研作，渡部良典，根岸雅史，長沼君主，ベネッセコーポレーション国際教育事業部（2004）「学生CAN-DO/英語教員意識調査から見た日本，韓国，中国英語教育の現状と今後の課題」In Benesse Corporation. (Ed.),『東アジア高校英語教育GTEC調査: 指導と成果の検証』(pp. 27–60). ベネッセコーポレーション.

参考資料

英字新聞読解タスク

① Task 1（TV 欄）

SECTION 1 記事をみて質問に答えてください。 制限時間 10分

BROADCAST (B) for bilingual, (S) for stereophonic, (OP) for open caption, (CC) for closed caption, (NS) for WOWOW nonscramble. programs listed on this page are subject to change without notice.

1 NHK-G (2 KANSAI 3 NAGOYA)	3 NHK-E (12 KANSAI 9 NAGOYA)	4 MBS	6 ABC	8 KTV	10 YTV	19 TV-OSAKA
MORNING 4:30 Good Morning Nippon 8:15 Drama: Fight, :30 News, :35 Living Info: Have a Good Day 11:00 News, :05 Kanto Area News, :54 Weather	5:00 (B) Poetry, :05 Business, :30 (S) Russian 6:00 (S) Italian Conversation, :30 Calisthenics, :45 Sign Language 7:10 Nursery & Primary Programs	MORNING 5:00 Info Variety, :30 Monta Mino's Morning Show 8:30 Info Variety: Hanamaru Market 9:55 (S) Drama: H2, Kimi to Ita Hibi 10:55 Shopping 11:30 News & Info Variety	5:00 (S) News, :20 Morning Show: Wake-up Call 6:45 (S) Morning Asahi 8:00 Super Morning 9:30 (S) Cartoons & Kids' Drama 11:30 (S) Guide, :35 News	5:08 (S) Music & Weather, :25 Morning TV 8:00 News Variety: Tokudane 9:55 Morning Show: Tsukai Everyday 11:10 Shopping, :25 Cooking, :30 News	5:20 (S) Morning TV 6:30 Zoom-In Super 8:00 Morning Info Variety 9:55 Info Variety: Narutomo 10:55 (S) Info 11:00 Doctor in the TV, :25 Info, :30 News, :50 Cooking	5:10 (S) Shopping, :40 Event Info, :45 Morning News 6:40 (S) Topics, :45 (S) Kids' Morning Show 7:30 (B) Disney Cartoon 8:00 (S) Cartoon Theater 9:00 Stock Market Info, :26 Event Info, :30 (S) TV Shopping, :55 Guide 10:00 (S) Volunteers, :30 (S) Instant TV Directors 11:00 News & Stocks, :30 (S) Child Care, :35 Samurai Drama: Cho-shichiro Edo Nikki
AFTERNOON 12:00 News, :20 (S) Aichi Expo Info, :45 Drama 1:00 News, :05 (S) Hello Studio Park 2:00 News, :05 Trans-Japan News & Info 5:00 News, :10 Metropolitan Network	12:00 (S) Food for the Century, :40 (S) Music 1:00 News, :05 Child Care, :35 (S) Gardening 2:00 (S) Cooking, :30 (S) Home Handicrafts 3:00 (S) Calligraphy, :30 High School Correspondence Course 4:00 (S) High School Athletic Meet 5:00 (S) Nursery & Primary Programs	AFTERNOON 12:55 Topics 1:00 (S) Drama: Daisuki Itsutsugo Go, :30 (S) Drama: Shin Kids' War 2:00 (S) Info Variety 3:00 (S) Afternoon News & Info 5:50 (B) Evening News	12:00 Wide Show: Scramble 1:05 Cooking, :20 (S) Tetsuko's Interview, :55 (S) Musical Play Info 2:50 Cooking, :55 News 3:00 (S) Drama: Aibo, :55 (S) Wide Show: Move 5:54 (S) News: Super J Channel 6:17 (S) ABC Evening News, :54 (S) Historical Roads	12:00 Variety: Waratte Itomo 1:00 (S) Talk Show: Gokigenyo, :30 (S) Drama: Kaiyaku Kekkon 2:00 (S) Topics, :05 Afternoon Info Variety 3:30 Variety: Nep-League 4:26 (S) Cartoon: Konjiki no Gasshu Beru, :54 Super News	12:00 Variety: Omoikkiri TV 1:55 Studio Show: The Wide 3:49 (S) Cartoon: Mei-tantei Conan 4:20 Event Report Special 5:50 News: Plus One	12:30 (S) Drama: Kazoku no Monogatari 1:00 (S) Suspense Drama: Moeta Hanayome 2:55 (S) Cartoon 3:25 Guide, :30 Stock Market Info, :55 (S) Info 4:00 Ladies' 4, :55 Event Info 5:00 News Flash, :25 (S) Business News, :55 Topics
EVENING 6:00 News, :10 Metropolitan Network, :52 Weather 7:00 (B) News 7, :30 Metropolitan News 8:00 (S) Tsurube's Trip without a Plan, :45 News 9:00 News 9, :15 (S) Samurai Drama: On-yado Kawasemi 10:00 (B) News 10 11:00 (S) NHK Special Encore 12:00 Commentary, :10 News, Weather, :25 Encore Hour 2:25 Commentary, :40 (S) Midnight Channel 3:57 (S) Music & Pictures (4:30)	6:00 (S) Cartoons, :20 (S) Kids' Variety: Tensai Bit-kun 7:00 (S) Teenagers' Internet Debate, :50 Sign Language 8:00 (S) Health, :45 Sign Language News 9:00 (S) Introduction to DIY, :45 (S) Topics 10:00 (S) World Art Museums, :25 Business School, :50 Commentary 11:00 (S) English Conversation, :10 Japanese Language Class, :30 (S) Teenagers' Debate 12:15 (S) Topics, :25 (S) Youths at Work, :50 (B) Weekend Japanology 1:35 (S) ETV Library 3:50 High School Correspondence Course 4:50 Scenery	EVENING 6:16 News: Voice, :55 (S) Tragedy of Hiroshima 9:48 News, :54 Topics 10:00 (S) Drama: Dragon-zakura, :54 (S) Guide 11:00 (S) Stars' Dating Variety, :30 News 23 12:50 News, :55 (S) World Athletics Info 1:25 (S) Info Variety: R30 2:10 George Tokoro's Variety, :45 (S) French Movie: Tout Pres des Etoiles (Etoiles: Dancers of the Paris Opera Ballet: subtitled in Japanese) 4:50 (S) Info, :53 (S) News Bird (5:30)	7:00 (S) Cartoon: Doraemon, :30 (S) Cartoon: Crayon Shin-chan, :54 (S) Topics 8:00 (S) Music Station, :54 News 9:00 Vaudeville: Waraking, :54 (S) News: Hodo Station 11:10 (S) See the World by Train, :17 Variety: Knight Scoop 12:12 News, :19 (S) Topics, :24 (S) Drama: Haruka Seventeen 1:19 All-night Live Debate 4:20 Weather, Info, :25 TV Shopping (4:55)	7:03 (S) Pro Baseball: Swallows vs. Giants (If canceled, 7:00 Documentary, :57 Variety: baseball may continue until 9:09) 8:54 News, Weather 9:00 (S) Drama: Rikon Counselor, Todorokii Shoko 10:52 Sakai, :57 (S) Weather 11:00 Variety: Mental Training, :30 (S) Music & Talk Show, :58 News Japan 1:05 Midnight Talk Variety 2:00 (S) Guide, :10 (S) TV Shopping 3:10 (S) Music (3:30)	6:17 News Scramble 7:00 (S) Ninety-Nine's Variety 8:00 Variety: Mysterious Riddles, :54 News 9:03 (S) Japanese Movie: Hotaru no Haka 10:54 (S) Topics 11:00 Variety: Pretty Garage, :30 Today's Events, :59 (S) Sports MAX 12:39 (S) Masatoshi Hamada's Variety 1:09 (S) Variety: Sports Style, :39 (S) Guide 2:04 (S) Topics, :24 (S) Variety: Ordinary People, :54 (S) Movie Digest 3:34 (S) Topics, :48 (S) Event Guide, :51 (S) Topics	6:00 (S) Cartoon: Keroro Gunso, :30 (S) Cartoon: Tottoko Hamutaro 7:00 (S) Heroes' Hidden Lives Special 8:48 (S) Topics, :54 (S) News 9:00 (S) Variety: Piumpies, :54 (S) Weather 10:00 (S) Art Variety: You Can Be Picasso, :54 (S) Topics 11:00 World Business Satellite, :58 Sports 12:12 (S) Tsurube's Talk Variety, :53 (S) Topics 1:00 (S) Beauty Info Variety, :30 (S) Instant TV Directors 2:00 (S) U.S.-Canadian Movie: 36 Hours to Die (Subtitled in Japanese) 3:50 Event Info, :55 (S) TV Shopping (4:25)

Q1: 午前中に天気予報をみたいのですが、番組表に明記しているのはどこの局ですか。

局名：（英文字で）

Q2:「NHK で英会話のテレビをみる」という宿題が出ました。夜だと何時にありますか。

開始時間：

Q3: 家族がお昼過ぎ 1:00 頃に料理番組を見たいと言っています。局名と開始時間を教えてあげましょう。

局名：（英文字で）

開始時間：

Q4: 夜 11 時～12 時の間に音楽番組を見たいのですが、どこの局でやっていますか。

局名：（英文字で）

Q5: 手話によるニュース番組があると聞きました。夜だと、どこの局で何時からありますか。

局名：（英文字で）

開始時間：

② Task 2（広告）

SECTION 2 記事をみて質問に答えてください。 制限時間 5分

These restaurants provide the following great services:

1) Have an English menu.
2) Have a menu that comes with pictures of the dishes.
3) English-speaking staff are present.
4) Payment can be made by credit card.
5) Can receive a complimentary gift if you show the World Gourmet Passport at this restaurant.

Note: Only applicable at dinnertime.

Location	Closest stn.	Type of food	Restaurant name	Contact	Non-smoking section exists	1	2	3	4	5
						Services provided				
Marunouchi	Tokyo	Fusion	Breeze of Tokyo	03-5220-5551 www.wdi.co.jp	○	★	★	★	★ <10% off>	★
Ginza	Shimbashi	American	T.G.I. FRIDAYS Ginza 8-chome	03-5537-5955 www.tgifridays.co.jp	○	★	★	★	★ <10% off>	★
Roppongi	Roppongi	Japanese	Yakitori Moe	03-5414-1141 www.headrock.co.jp	×	★	—	★	★ <5% off>	★
Shinagawa	Shinagawa	Oyster bar, seafood	Grand Central Oyster Bar & Restaurant	03-3671-0932 www.oysterbartokyo.com	○	★ <1 free glass of wine/person (up to 4 persons)>	—	★	★	★
Azabu	Azabu-juban	Japanese	Rainbow Roll Sushi	03-5572-7888 www.wdi.co.jp	○	★	—	★	★ <15% off>	★
Kichijoji	Kichijoji	Italian	Ristorante Primi Baci	0422-72-8202 www.primibaci.com	○	★	—	★	★ <10% off>	★
Roppongi	Roppongi	American	Hard Rock Café Tokyo	03-3408-7018 www.hardrockjapan.com	○	★ <1 free (regular size) glass of draft beer>	★	★	★	★
Yokohama	Minato-Mirai	American	Hard Rock Café Yokohama	045-682-5626 www.hardrockjapan.com	○	★ <1 free (regular size) glass of draft beer>	★	★	★	★
Roppongi	Roppongi	American	Tony Roma's Roppongi	03-3408-2748 gnavi.joy.ne.jp/wdi/tonyroma	○	★ <1 free (regular size) glass of draft beer>	★	★	★	★
Aoyama	Gaien-mae	American	Tony Roma's Aoyama	03-3479-5214 gnavi.joy.ne.jp/wdi/tonyroma	○	★ <1 free (regular size) glass of draft beer>	★	★	★	★
Bunkyo	Suidobashi or Korakuen	American	Bubba Gump Shrimp Co. Tokyo	03-3866-7041 www.wdi.co.jp	○	★ <1 free (regular size) glass of draft beer>	★	★	★	★
Roppongi	Roppongi	Fine Italian	Il Mulino New York	03-5786-0337 www.ilmulinonewyork.jp	○	★ <1 free glass of champagne or wine>	—	★	★	★
Roppongi	Roppongi	French cuisine	Brasserie Va-tout	03-3568-2080 www.lead-off-japan.co.jp/tempo/index.html	×	★	—	★ <1 free glass of wine>	★	★
Roppongi	Roppongi	Tequila Bar	Agave	03-3497-0229 www.lead-off-japan.co.jp/tempo/index.html	×	★	—	★	★	—
Ebisu	Ebisu	Restaurant Bar	Great Appetizers	03-5724-6105 www.lead-off-japan.co.jp/tempo/index.html	×	★ <1 free glass of champagne or wine>	—	★	★	★

Q1: 記事の見出しから、何についての記事だと思いましたか。

Q2: この記事の有効期限はいつですか。

Q3: 写真つきのメニューがあるお店はどこですか。お店の名前を○で囲んでください。（左の記事に書き込んでください。）

日本人高校生英語電子メール作成能力調査
― 英語ライティング能力に関する Can-do Statements 開発への基礎研究 ―

A Study of Japanese High School Students' Ability to Write E-mails in English: A Fundamental Study on Developing Can-do Statements With Regard to Writing Ability in English

工藤洋路
Yoji KUDO
東京外国語大学大学院博士後期課程/日本女子大学附属高等学校
Tokyo University of Foreign Studies
The Doctor's Program of the Graduate School /
The High School Affiliated with Japan Women's University

Abstract

The purpose of this study was to assess the ability of Japanese high school students to write e-mail in English. During the study, 136 students were required to work on six different e-mail tasks, and to take an essay-writing test in which they wrote freely on a given topic. After evaluating each examinee's performance on the six e-mail tasks and the essay test, the following findings were made:

1) The students had difficulty with e-mail tasks requiring the expression of emotions, e.g. surprise, anger, concern, as well as the simultaneous use of two or more complex language functions, e.g. refusal with suggestion.

2) To some extent, a student's ability to write e-mail is related to their ability to write essays. Students must reach a certain (threshold) level of competence in essay writing, before they are able to successfully write complex e-mails.

3) Similar vocabulary and grammar are required to write e-mails and essays, but each requires the use of different language abilities.

Keywords

writing ability, Can-do Statements, e-mail, essay, threshold level

1. 研究の背景と目的

近年，言語能力がどのように発達していくかについての実証的な研究を基盤として，言語能力発達段階を記述する枠組みを開発する動きが多く見られるようになった。例えば，Common European Framework of References for Languages（以下，CEFR），Canadian Language

Benchmarks, American Council for the Teaching for Foreign Language Proficiency Guideline などは，それぞれ，設定された言語能力段階ごとに，多くの場合は言語技能別に，Can-do Statements を開発している。また，テスト開発を主な目的としている TOEFL や TOEIC にもそれぞれ，Can-do Statements [注1] に該当するものがあり，テスト得点ごとに，こちらも多くの場合言語技能別に，実際にその言語を使って何ができるかについての記述がある。このような言語能力の枠組みや Can-do Statements を日本の中学生や高校生に応用できる可能性も考えられるが，現段階では以下に示す問題点を挙げることができる。

CEFR などは，個別言語を対象としているわけでないので，個別言語に特有の発達段階を記述していない。従って，英語を研究の対象とした場合には，英語特有の発達段階を枠組みに組み込めず，英語という言語の包括的な枠組みにはなりにくい。また，上述した枠組みの多くは，言語の学習を始めたばかりの初級学習者から，母語話者のレベルに近い上級学習者まで，かなり言語能力に幅のある学習者を対象としていることから，各レベルでの能力記述が非常に抽象的になっている場合が多い。例えば，CEFR では，日本人中学・高校生の多くが該当するであろう A2 レベル[注2] の Can-do Statements には，Can write short, simple notes and messages relating to matters in areas of immediate need (Council of Europe, 2001) というものがある。この記述だけでは，実際にどんなメモやメッセージを書くことができるのかが具体的にイメージしにくい。「短いメモ」とは何語程度なのか，「簡単なメッセージ」とはどんなメッセージのことかなど，もう少し具体化しない限り，この A2 レベルの能力の具体的な能力のイメージが浮かびにくいであろう。

このような理由から，海外で開発されている言語能力の枠組みや Can-do Statements を直接日本の中学・高校生へ応用することは危険であろう。そこで，本研究では，日本人中学・高校生を対象として開発された英語のテストに焦点を当て，有効な Can-do Statements を開発するための調査を行うこととする。研究対象とするテストは，ベネッセコーポレーションが開発した GTEC for STUDENTS とする。GTEC for STUDENTS のスコアレポートには，Can-do Statements の一種である「あなたの英語はこんなに使える」が存在していることから，本研究の目的に則しており，その Can-do Statements をより正確で具体的なものにする調査を行うこととする。この Can-do Statements も，海外の枠組み同様，言語能力別（グレード別），そして言語技能別に記述が行われている。言語技能の中でも，本研究では，ライティングの技能に焦点を当て，Can-do Statements 開発への基礎調査を行う。

GTEC for STUDENTS のスコアレポートにおける，ライティング能力に関する記述例は，「英語の手紙や電子メールで，自分が書きたいことを辞書を引きながら書くことができます。さらに書く練習を積むと，辞書なしでも大体のことは書けるようになるはずです。」というものである。この記述には，「手紙」や「電子メール」といった現実の生活で使用する言語媒体が含まれているが，そこにも，上述したような具体性に関する問題点を指摘することができる。「電子メールで書きたいことが書ける」という記述だけでは，電子メールといってもどんなタイプ（こちらからの発信型なのか相手のメールに対する返信型なのか）のものか，また誰に対して送信する電子メールなのか，電子メー

注1 TOEFL（詳細には，TOEFL iBT）では，Can-do Statements ではなく，Language Competency Descriptor，TOEIC では，Can-do Tables と呼ばれている。

注2 CEFR の能力段階は，A1（Breakthrough），A2（Waystage），B1（Threshold），B2（Vintage），C1（Effective Operational Proficiency），C2（Mastery）の 6 段階となっている。

ルを送信する目的は何かなど，さらに具体的な記述が望まれるものが存在する。ただし，このような問題点があっても，テスト自体が日本人中高生を対象としているので，本研究で GTEC for STUDENTS を用いて，枠組みに関する調査を用いる意義は高い。

本研究では，GTEC for STUDENTS の受験者へのフィードバックの意義をさらに高めるために，GTEC for STUDENTS の Writing のテスト結果と，実際に英語を使って書けることの関連性を明らかにすることを目的とする。実際に英語を使って書くことについては，電子メールという媒体で実際に何が書けるかを調査する。電子メールに関しては，CEFR などの既存の枠組みに電子メールに関しての記述が見られるが，書く媒体の一例として記載されている（Council of Europe, 2001）に過ぎないため，本研究で，詳細な調査を行う意義が認められるであろう。同様に，GTEC for STUDENTS のスコアレポートでは電子メールで英語で書くことの記述はあるが，具体的に何を書くか，何の目的で書くかなどが明らかでないことからも，電子メールに関する研究を行う必要性が認められる。電子メールが普及してきたのが最近であり，電子メールを用いて英語で書くことについての研究があまり行われていないことなどからも，本研究で電子メールに焦点を当てる意義が見出せる。そこで，電子メールを英語で作成する能力を調べるために，以下の調査を行った。

2. 調査

2.1 調査方法

同一被験者に，ほぼ同時期に，GTEC for STUDENTS の Writing のテスト，複数の電子メール作成タスク，電子メール作成の経験を問うアンケートを実施し，それぞれの数値データから，両者の関連性を検証する。

2.2 収集データ

2.2.1 複数の電子メール作成タスクのパフォーマンス結果

「電子メールを書く能力」といった場合，誰に対して，何の目的で，どんな電子メールを書くのかを明確にすることが本研究の目的のため，複数の電子メール作成タスクを用意する。実際に電子メールを作成してもらうために，パソコンが設置されている部屋で，各被験者はパソコン1台を前にして，電子メールを作成する。一般に使用されている電子メールソフトに類似した電子メール作成プログラムを組み，画面上で作業をしてもらう（資料1参照）。また，実際の電子メール作成場面にできる限り近づけるために，被験者は送信されたメールに対する返信のメールを作成する 6 種類のタスクを行い，返信する人物になりきるために，プロフィール表と週間予定表（資料 2 参照）が配布され，それに基づいた電子メールの返信を作成する。

電子メールのタスクについては，想定される言語機能を基準に以下の 6 つを設定した。この 6 つのタスクを 40 分以内で行う。

表 1. 電子メールタスク一覧

	受信メールの要点	主な言語機能
タスク 1	住所と電話番号を教えてください	個人情報の伝達
タスク 2	明日放課後テニスをしよう	報告＆勧誘受諾
タスク 3	6 月 16 日暇ですか？	予定の伝達＆勧誘拒否
タスク 4	6 月 15 日の約束を忘れてしまった…	感情（驚き，怒り，心配など）表現＆予定伝達
タスク 5	6 月 15 日に英語を教える時間とれます	勧誘拒否＆謝礼
タスク 6	6 月 16 日にミュージカルに行きましょう	勧誘拒否＆勧誘

電子メールのタスクのパフォーマンス結果について，「課題達成（2点）」，「内容伝達（1点）」，「言語表現（1点）」の3観点で採点を行う。「課題達成」ではプロフィール通りで，想定される言語機能が達成されているか，「内容伝達」では明確な伝達内容が書かれているか，「言語表現」では電子メールのやりとりを想定した上で，理解可能な文法や語彙を用いているか，をそれぞれ評価基準とする。電子メールを実際のコミュニケーションの手段として用いた場合，相手に誤解を与えたり，理解が不可能なものでない限り，コミュニケーションは成立することから，今回の採点においても，意図する内容が伝わっている限りは減点対象にはしないこととする（採点基準については，資料3を参照）。

2.2.2 GTEC for STUDENTS の Writing のテスト結果

意見展開型で与えられたテーマに対する自分の考えを表現する問題1題を，自由記述形式で出題し，採点は，「語彙（Vocabulary）」，「文法（Language Elements）」，「構成（Organization）・展開（Development）」の3観点および，内容評価を含めたスコアとグレードを数値で出す。分析対象は，「スコア」，「グレード」，「語彙」，「文法」，「構成・展開」の5つとする。以下はその問題例である。

【GTEC for STUDENTS の Writing の問題例】
「高校生はアルバイトを積極的にすべきだ」という意見があります。この意見に賛成か反対か，いずれかの立場をはっきりさせ，できるだけたくさんの理由を取り入れながら，あなたの意見を英語で書きなさい。

2.2.3 電子メール作成の経験を問うアンケート結果

電子メールのタスクを行う前に，被験者は，パソコンの画面上で，英語で電子メールを作成した経験があるかどうかと，その達成度（未経験者は推定達成度）についてのアンケートに答える。

【アンケート内容】
Q1 あなたは，英語で電子メールを書いたことがありますか？
1. 書いた事がない　2. 少し書いたことがある
3. 何度も書いたことがある　4. 頻繁にやりとりをしている

Q2　あなたは英語で電子メールを書いたとき，うまく書けましたか？
（経験がない人は書いてみたらうまく書けると思いますか？）

1. 定型的な，決まり切った簡単な内容なら書くことができた。（書けると思う）
2. 短い簡単な内容なら，自分の書きたいことをなんとか書けた。（書けると思う）
3. ある程度の長さのものでも，自分の書きたいことをだいたい書けた。（書けると思う）
4. ある程度の長さのものでも，自分の書きたいことをほとんど書けた。（書けると思う）

このアンケートの目的は，英語での電子メール作成能力についての自己評価についての概要を知ることである。Can-do Statements を開発する場合，被験者が自分の能力を自己評価することによりその人の能力を知る方法がある。上記のアンケートは，電子メール作成能力に関して自己評価を行った場合，自己の能力をどのように判定するのかについて一般的な傾向を調査する意義がある。そして，電子メールを書く能力に関するその自己評価を，電子メール作成の経験値と関連づけることにより，経験と自己評価の関連性も見えてくる。本研究の主たる調査ではないが，電子メールを実際に実施できない環境でも，経験に基づく自己評価によってその能力を推定することができれば，Can-do Statements の開発に貢献することが可能であろう。この点は，本研究では，副次的な目的と捉える。

2.3 被験者

被験者に関しては，3つのスーパー・イングリッシュ・ランゲージ・ハイスクール（SELHi）指定校より，合計 136 名を設定する。その内訳は，A 校 52 名，B 校 21 名，C 校 63 名である。

3. 結果と考察

電子メールタスクのパフォーマンス得点（資料4参照）に関しては，被験者が作成した多くの返信メールが，コミュニケーション上は問題がないと判断され，結果的にどのタスクも平均点が高くなった。ただし，その中でも，比較的難易度が高いものが，タスク 4 とタスク 6 であるため，その原因を，想定した言語機能に探ってみる。すると，タスク4では，驚き，怒り，心配などの感情を表現することと，予定を伝達することが達成すべき言語機能として設定されていた。タスク 6 では，相手からの勧誘を断ると同時に別の提案を持ちかけるという複雑な言語機能を達成することが採点基準となっていた。この2つのタスクにおいて，被験者間でパフォーマンスの差が見られたこと，特に「課題達成」の観点で得点が取れた被験者とそうでない被験者がいたことは，電子メール作成能力の発達段階に，上記のような言語機能を使いこなす能力が関わっている可能性があることが示唆できる。

そこで，電子メールタスクの得点と，GTEC for STUDENTS Writing テスト得点（資料5参照）の相関を算出し，英語での電子メール作成の能力に，何らかの発達段階を見出せる要素が存在するかを検証してみる。電子メールタスク得点にも，GTEC for STUDENTS Writing テスト得点にも，トータル得点と，それを導く下位得点があるので，すべての組み合わせで相関値を算出した（資料 7 参照）。まず，電子メールタスクの総点と GTEC for STUDENTS Writing のトータルスコアの相関係数が 0.41 であることから，電子メールを作成する能力と，意見展開型で与えられたテーマに対する自分の考えを表現する能力に，それほど高い相関が認められるわけではないことが判明した。ただし，相関係数を用いて考察を行うことは，電子メールタスク得点のデータの各項

目において，平均値が非常に高く，また標準偏差も非常に小さいことから，危険である。そこで，各項目間のクロス集計表から，GTEC for STUDENTS Writingと電子メールタスクの関連性を探ってみる。その結果，難易度の高いと判定されたタスク4とGTEC for STUDENTS Writing には，関連性が存在すると思われる（資料8参照）。電子メールタスク4が達成される（トータル得点が3点以上と設定）ためには，GTEC for STUDENTS Writing テストで，グレード3ないし4以上を取る能力が必要であることがわかる。従って，電子メールを作成する能力と，意見展開型で与えられたテーマに対する自分の考えを表現する能力に何らかの関連性がある場合があると言える。その関連性とは，相関関係ではなく，ある一定のレベルを超えると，同じ程度に達成可能な事柄が存在するようになるという関連性である。言い換えると，最も難易度が高いタスク4を達成する，つまり，複雑な電子メールでも英語で作成できる threshold level は，GTEC for STUDENTS Writing テストではグレード3ないし4であると言える。以下の作文例からも，グレード3を超えるとほぼ同じ程度に電子メールタスクが達成できることがわかる。グレード3の被験者もグレード5の被験者も同程度に電子メールタスク4が達成されていることがわかる。

【GTEC for STUDENTS Writing グレード 3 の被験者の電子メールタスク 4 の作文】

Hello, Julie!! Yeah, I remember about that. I'm looking forward to seeing the musical with you! But 18th is better than 16th for me. If you're good, can we go to see that on 18th? Plese write back. Thank you. Hikaru.

【GTEC for STUDENTS Writing グレード 5 の被験者の電子メールタスク 4 の作文】

Hello! How are you? Yes, let's!! I'm really looking forword seeing the musical!! I'm sorry I have another plan on June 16th. So let's go 18th. I'm free that day. Then when and where are we going to meet at? Hikaru

GTEC for STUDENTS Writing と電子メールタスクの関連に関して，threshold level の存在の可能性があることから，その理由を探るために，下位項目を見てみる。同様に，クロス集計表を用いると，上述した電子メールタスク 4 とタスク 6 の下位項目と，GTEC for STUDENTS Writing テストの下位項目との間に，ある程度の関連性が見られる（資料9参照）。トータル得点と同様，ここでも，GTEC for STUDENTS Writing の下位項目である「語彙」と「文法」と，タスク 4 の「トータル」との間に，threshold level の存在が認められるであろう。従って，電子メール作成にも，自由記述式のライティングに必要な語彙や文法の運用能力が必要であることもわかる。一方で，もう1つの下位項目である「構成・展開」とタスク4とのクロス集計では，関連性は見えなかった。このことは，GTEC for STUDENTS Writing のような自分の意見を展開していくエッセイ型のライティングを書く能力と，電子メールを作成する能力に違いが存在することを示している。

最後に，電子メール作成経験を問うアンケート結果（資料6参照）によると，英語で電子メールを作成した経験のある人は全体の約4割程度であり，その経験がある人の方が，若干，自分の電子メール作成能力を高めに評価している。ただ，全体の傾向としては，電子メールを英語で作成する能力に対する自己評価は低めであると言える。

4. 結論と今後の課題

本研究では，電子メールといってもタスクによって難易度に差があり，特に，驚き，怒り，心配などの感情を表現することと，相手からの勧誘を断ると同時に別の提案を持ちかけるような複雑な言語機能を果たす電子メールは難易度が高いことが明らかになった。また，意見展開型で与えられたテーマに対する自分の考えを表現する能力と，電子メールを作成する能力には，重なっている要素もあれば，そうでない要素もある。重なっている要素として明らかになったこととして，電子メール作成にも，意見展開型の自由記述式のライティングに必要な「語彙」や「文法」の運用能力が必要であることであることが挙げられる。また，複雑な言語機能を達成することが必要な電子メールを作成する能力と意見展開型の自由記述式のライティングを行う能力の間に，threshold level が存在することも判明した。逆に，重なっていない部分としては，意見展開型の自由記述式のライティングで必要な「構成・展開」の能力が挙げられる。重ならない部分が存在するということは，同じ英語でのライティングとはいえ，電子メールと自由記述作文というように，求められるテキストタイプが違えば，必要な能力，あるいは引き出される能力が異なるということが言える。今回の調査で実施したような電子メールを書く能力と，エッセイ型のライティングで必要な論理的に文章を構成し，それを展開していく能力の関連性は薄いと言える。

今後の課題としては，本研究で利用した電子メールタスクの採点規準は非常に簡易なものであったため，タスク得点にあまり差が出なかったことから，電子メールタスクの評価規準の再構築を行う必要がある。また，採用した電子メール作成タスクは，すべて返信型であったので，自分から最初のメールを送信する発信型の検証も必要である。最後に，電子メールの作成の経験を問うアンケート結果から，電子メールを英語で作成する能力に対する自己評価は低い傾向にあることが分かったが，このことは，Can-do Statements を自己評価による回答を基に開発する際には，考慮に入れたい。

参考文献

Council of Europe. 2001. *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.

資料 1. 電子メール作成画面

資料 2. 電子メール作成：作成者プロフィールと週間予定

Profile **Hikaru**	
School	Minami High School
Club	Basketball
Likes	Movie, Soccer, Comedy, Musical
Address	1-1-1 Minato-Town, Kanagawa Pref.
Phone Number	045-953-ABCD
Mail Address	hikaru@gtec.ne.jp

Schedule	
6/12 [Mon.]	after school: no club (look for someone to spend time with)
6/13 [Tue.]	after school: club (16:00-18:00)
6/14 [Wed.]	after school: no club (look for someone to spend time with)
6/15 [Thu.]	after school: go to Yokohama with Chris to buy shoes & t-shirts, watch soccer game at the stadium together (18:30-21:00)
6/16 [Fri.]	school holiday: study at home (until 12:00), movie with Peter (14:00-17:00) , dinner at home with my family (from 18:00)
6/17 [Sat.]	after school: club (16:00-18:00), after club: buy basketball books with Chris
6/18 [Sun.]	want to go to see MUSICAL! (look for someone to go with)

資料 3.　電子メールタスク採点例

「課題達成（2点）」

タスク 4 （2 点）	Hey,hey,hey!Chris. What's the matter with you? We are to go to YOKOHAMA!! to buy shoes &T-shirts,and then watch soccor game at the stadium TOGETHER! how about go restaurant after watching the game? Hikaru 【感情表現，予定伝達の機能が達成されている】
タスク 5 （1 点）	Hi! Mike. I'm sorry.I can't meet that day. How about on June 14 (Wednesday)? If you are free on June 14th, please send me a mail. Bye 【謝礼表現なしのため減点 1】

「内容伝達（1点）」

タスク 1 （0 点）	Hi! I am Hikaru. I'm pretty good. We can meet you ? Very wounderful! O.K. I' ll send you my home address and phone number. 1-1-1 Minato-Town, Ibaraki Pref. 0294-953-ABCD See You.Hikaru. 【前半部分に，受信メールとのつながりが不明な点がある】
タスク 5 （0 点）	Hi,Mike! How are you? I want to help my English home work with you. But The day, I have already plan.I' m going to go Yokohama with Chris. I' sorry. Please help me someday. Good bye. Hikaru. 【I want to help my English home work with you.が返信メールとして機能していない】

「言語表現（1点）」

タスク 1 （0 点）	1-1-1 Minato-Town, Kanagawa Pref. 045-953-ABCD 【要件のみで，電子メールのやり取りの想定がない】
タスク 5 （0 点）	Hello,Mike,,, Thank you to remember asking you about my homework. But,,, I have already have a plan on June 15. I will go to Yokohama with Chris. I'm really sorry. Hikaru 【Thank you to remember asking you about my homework.の意味が不明】

資料 4. 電子メールタスクパフォーマンス得点

	電子メールタスク得点																											
	タスク 1				タスク 2				タスク 3				タスク 4				タスク 5				タスク 6				課題達成・計	内容伝達・計	言語表現・計	メール総点
	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル				
平均	2.0	1.0	1.0	3.9	2.0	1.0	1.0	3.9	1.9	1.0	1.0	3.9	1.3	1.0	1.0	3.2	1.5	0.9	1.0	3.3	1.5	0.9	0.9	3.2	10.1	5.6	5.6	21.3
標準偏差	0.0	0.1	0.2	0.3	0.1	0.1	0.2	0.3	0.4	0.1	0.1	0.5	0.5	0.2	0.1	0.6	0.6	0.3	0.2	0.8	0.7	0.3	0.4	1.2	1.5	0.7	0.7	2.5

資料 5. GTEC for STUDENTS Writing テスト得点

	GTEC for STUDENTS Writing テスト				
	スコア	グレード	語彙	文法	構成・展開
平均	120.2	4.2	6.1	5.5	6.0
標準偏差	17.4	0.6	1.0	0.9	1.1

資料 6. 電子メールに関するアンケート結果

Q1 英語で電子メールを書いたことがあるか？				Q2 そのとき，うまく書けたか？（書けると思うか？）			
ない	少し	何度も	頻繁に	定型的な，決まり切った簡単な内容	短い簡単な内容／書きたいことをなんとか	ある程度の長さ／書きたいことをだいたい	ある程度の長さ／書きたいことをほとんど
59	58	14	5	26	76	27	7
				17	35	3	4

資料 7. 電子メールタスク得点と GTEC for STUDENTS Writing 得点の相関

ある程度の相関(0.3 以上)が見られる項目		電子メールタスク得点										
		2	4			6				課題達成・計	内容伝達・計	メール総点
		課題達成	課題達成	内容伝達	トータル	課題達成	内容伝達	言語表現	トータル			
GTEC for STUDENTS Writing	スコア	0.31	0.31	0.33	0.37		0.30		0.31	0.39	0.35	0.41
	グレード				0.32		0.30		0.31	0.38		0.37
	語彙		0.32		0.34					0.42		0.39
	文法				0.32	0.30				0.44		0.42
	構成・展開									0.31		0.27

資料 8. 電子メールタスク 4 と GTEC for STUDENTS Writing「グレード」のクロス集計表

		タスク 4 トータル					
		0	1	2	3	4	計
GTEC「グレード」	2		1				1
	3	1		1	9	2	13
	4		1	3	51	24	79
	5				25	17	42
	6					1	1
	計	1	2	4	85	44	136

資料 9. 電子メールタスク 4 と GTEC for STUDENTS Writing 「語彙」「文法」のクロス集計表

		タスク 4 トータル					
		0	1	2	3	4	計
GTEC「語彙」	3				1		1
	4	1	1	1	2		5
	5			2	15	8	25
	6		1	1	49	18	69
	7				10	6	16
	8				8	12	20
	計	1	2	4	85	44	136

		タスク 4 トータル					
		0	1	2	3	4	計
GTEC「文法」	3		1	1	1		3
	4	1			4	3	8
	5		1	3	35	13	52
	6				41	23	64
	7				3	3	6
	8				1	2	3
	計	1	2	4	85	44	136